

一般社団法人 日本学校教育相談学会

The Japanese Association of School Counseling and Guidance

会報 JASCG

- 1◎巻頭言
- 2◎第32回中央研修会について//研修委員会//認定委員会
- 3◎学会誌作成委員会//広報委員会
- 4◎ガイダンスカウンセラー関連情報//支部のキラリ
- 5◎支部のキラリ//【東京都支部】一支部活動報告一
- 6◎【東京都支部】一支部活動報告一
- 7◎第33回兵庫大会報告//災害被災者支援委員会報告
- 8◎会長コーナー//事務局より//編集後記

第66号

巻頭言

「コロナ時代」の子どもたち と対話的、共感的な関係を

この度、みなさん方のご承認を経て、会長という大役を担うことになりました春日井敏之（京都府支部）です。どうぞ、よろしくお願いたします。幸いなことに、栗原慎二・前会長、梅川康治・前事務局長をはじめとする役員の方々と一緒に、副会長として様々な取り組みに参画できたことは、学会にとって、私自身にとっても大切な財産であり改めて感謝申し上げます。これまでの取り組みの到達点を踏まえながら、会員の方々の総力を活かして、子どもたち、教育のために私たちにできること、求められていることについて、学校教育相談を軸にしながら実践・研究、研修などを深めていきたいと考えています。

先が見えない「コロナ時代」が2年目を迎え、子ども、保護者、教職員には、我慢と疲れの影響が染み出ているような状況がみられます。一つには、学校行事や部活動などが中止・縮小となり、学年を超えて交流し、文化を創造・継承していく機会が失われ不全感を抱える子どもたちです。また自傷行為や自死が増えており、厚生労働省によれば、2020年の児童生徒の自死は、前年度399人から499人



会長 春日井 敏之

へと100人も増え、その内60人は女子高校生でした。二つには、仕事が不安定になったりリモートワークが重なったりして、子どもにストレスをぶつけてしまい、虐待のリスクを高めているような保護者です。三つには、コロナ感染対策と授業時間の確保、行事の再検討や子どもとの関わりにエネルギーを費やし心身とも疲れている教職員です。

そのなかで、人がつながって生活していくための潤滑油としての「たわいもない会話や笑い声」など、感情交流や共感の場が乏しくなっていった影響は計り知れません。だからこそ子どもたちは、様々な生活、感情、願いを抱えて、「受けとめてほしい」「話を聴いてほしい」と学校にやってきます。子どもたちに対して、威圧的ではなく、対話的、共感的な姿勢と関係が今こそ求められているのです。

第32回中央研修会について

第32回中央研修会を令和4年(2022年)1月9日(日)に6講座をZoomによるオンラインで行います。新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、オンラインによる研修会もやむを得ないと考えています。そのため、従前に行っていました「プレ講座」や「鼎談」といった内容は割愛させていただき、「コース別講座」のみとさせていただきます。

本学会は公益法人化することを念頭に「教員免許状更新講習委員会」を立ち上げ、教員免許状更新講習を企画しておりました。しかし、このコロナ禍で内閣府の作業が滞り、認可が遅れております。そのため、折角企画した講座を実施する機会を逸失するおそれが出てまいりました。そこで、企画した講座を生かすために、中央研修会で実施してみたいというご提案が教員免許状更新講習委員会よりありました。それを受けて4講座を中央研修会で実施する運びとなっております。

今回の中央研修会は、「コース別講座」を6講座企画しています。午前3時間と午後3時間に、3講座ずつを振り分けての実施となる予定です。最新の課題を取り上げ、有意義な研修になるような講座を企画して、皆様にご提示してまいりたいと思います。それぞれの講座の具体的な内容につきましては、第32回中央研修会の開催案内でご確認くださいませようようお願い申し上げます。

今回の研修が、皆様の教育活動や相談活動にお役に立ちますことを願いつつ、研修委員一同、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

(文責：研修委員長 向江 幸洋)

★研修委員会

本年7月31日の第33回総会(兵庫大会)において、新役員が承認され、研修委員会も委員長が田邊昭雄先生(千葉県支部)から、向江幸洋(兵庫県支部)に替わりました。田邊先生には、新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の状況の中で適切なかじ取りをしていただきました。ここに厚くお礼を申し上げます。また、田邊昭雄前委員長同様、どうぞよろしくお願いいたします。

研修委員会では、7月30日の第22回夏季ワークショップを終え、現在、第32回中央研修会と第

23回夏季ワークショップ(2022年第34回栃木大会)を中心に、会員の皆様により良い研修の機会を提供するべく準備を進めている段階です。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、第31回中央研修会はZoomによるオンラインでの実施となりました。また、第22回夏季ワークショップも7講座をZoomによるオンラインで実施しました。さまざまな制約がある中、多数の参加者を得て盛況裡に終えることができました。皆様のご支援に感謝申し上げます。

来年の中央研修会、夏季ワークショップもオンラインによる実施になります。皆様の日々の教育活動、相談活動に生かせるような講座内容にしていきたいと考えています。

今後とも研修委員会の活動に、皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

(文責：研修委員長 向江 幸洋)

★認定委員会

○学校カウンセラー資格更新申請のお願い

昨年度は中止しました学校カウンセラー資格更新認定を今年度は実施いたします。既に該当する皆様には、申請書類を送付させていただいておりますので、奮って申請をお願いいたします。

・締切の延長

前号の会報誌では申請締切を12月1日とお知らせいたしました。12月20日まで延長いたします。

・満70歳以上の方の優遇

令和3年3月31日現在で満70歳以上の方で、学校カウンセラー資格更新が3回目以上となる方には、申請上の優遇があります。

申請書類 様式-2 相談実践証明書

申請書類 様式-3 相談研究証明書

申請書類 様式-4 相談研修証明書

以上3点の提出は不要です。

申請書類 様式-1のみを、審査料1万円をお振り込みの上、認定委員会にご提出ください。更新決定後更新料1万円も必要となります。皆様の豊かなご経験を今後も各方面で発揮し、ご活躍されることをご期待申し上げます。

・スーパービジョン領収書による特典

本学会認定の学校カウンセラースーパーバイザーからスーパービジョンを受けられた際にお受け取り

になった認定委員会指定の領収書を、様式-4の裏面に糊付けして提出してください。更新決定後お振り込みいただき1万円の更新料が5千円に割り引かれます。

○学校カウンセラー及び学校カウンセラースーパーバイザーの面接審査について

コロナ感染拡大の状況によっては、今年度も面接審査をWeb面接で実施する予定です。12月中旬頃判断し、申請された方々に個別にご連絡いたします。

(文責:認定委員長 梁瀬のり子)

★学会誌作成委員会

会員の皆様におかれましては、日頃より学会誌作成委員会の活動にご理解とご支援を賜りありがとうございます。去る8月の総会(兵庫大会)で委員長に再選されました。どうぞよろしくお願ひいたします。

学会誌への投稿論文の審査は、9名の委員のほか審査協力委員として多くの方にご協力いただいております。協力委員のお名前は、学会誌の巻末に掲載しております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

学会誌『学校教育相談研究』への投稿は、毎年8月末(8月の全国大会での発表者は10月末)が締切となっています。すでにお知らせしていますように、今回の投稿分から審査方法を改訂しています。投稿論文は、複数の査読委員による審査を経て、「掲載する」「修正の上掲載する」「修正の上再審査する」のいずれかの審査結果となります。審査結果が「掲載する」の場合は当該年度の本誌に、「修正の上掲載する」の場合は修正後直近の本誌に掲載されます。

「修正の上再審査する」の場合は、修正論文を2回まで審査(再審査と再々審査)します。その結果「掲載する」または「修正の上掲載する」にならなかった場合は「修正の上新規投稿として審査する」となり、いったん審査は終了します。

詳細は、学会誌第31号の「投稿規定・審査に関するガイドライン」「論文審査の流れ」「投稿前チェックシート」「論文作成の手引き」をご覧ください。

(文責:学会誌作成委員長 藤井 和郎)

★広報委員会

教員免許にICT利活用力

(2021年8月朝日朝肝記事)

教員免許や研修のあり方を議論している中央教育審議会の特別部会が、教員の基本的な資質能力を再定義することを決めたという。学習指導や生徒指導に加え、ICT(情報通信技術)や教育データを利活用する能力が、教員免許の取得に必要なこととされた。文科省が示す案は、「教職に必要な素養」「学習指導」「生徒指導」「特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応」と今回示された「ICTや情報・教育データの利活用」の5点。これらを具現化したものを「教員免許で担保すべき基礎的な能力」と位置づけている。

今日、社会の情報化が急速に進む中、子どもたちが必要な情報や情報手段を選択し活用できる「情報活用能力」の重要性はますます高まってきている。情報社会に主体的に対応していく力を備えるため、またICTリテラシーの習得の観点からも、学校におけるICT活用はメリットが大きい。また、一方、近年、教員の校務の多忙化の問題に対し、ICTを活用した校務の効率化により教員の負担軽減を図り、教員がより子どもたちに向き合えるような本質的な教育に時間を割くことにつながるのであれば大いに期待したい。

本会報では「キラリ」と輝く教員の取組を紹介するコーナーを設けている。是非、ICT教育に関する実践例を紹介していただき、会員相互で共有させていただきたいと願う。

(文責:広報委員長 山本 健治)



★ガイダンスカウンセラー関連情報

1. ガイダンスカウンセラーの資格更新

2011年度認定の方は、資格更新受付を2021年10月1日～12月4日に行います。

今回、「ガイダンスカウンセラー・スーパーバイザー」を新設しました。

ガイダンスカウンセラーの資格更新には①構成団体の資格を有していること、②規定のポイント(20ポイント以上)を取得していることが条件となります。20ポイントの中で、ガイダンスカウンセラー資格更新細則に示すⅠ～Ⅹの領域の中から、ⅠとⅡとⅢのそれぞれの1ポイント以上は必須となります。

2. 領域Ⅰ、Ⅱ、Ⅲについて

領域Ⅰ： 本協議会及び支部が主催・共催する行事等への参加。本部主催研修会、シンポジウム、ワークショップ、スーパービジョン研修は実施済みですが、下記の60分オンデマンド講義動画はHP (<http://jsca.guide/>) から申し込み、12月20日まで視聴できます。

- A) 育てるスクールカウンセリング
- B) 教育相談コーディネーターと包括的生徒指導・教育相談
- C) ガイダンスカウンセラーとチーム学校
- D) 学校における自殺予防教育の進め方―「未来を生きぬく教育」として

*詳しくは推進協議会のHP (<http://jsca.guide/>) を見てください。

領域Ⅱ： 本協議会に参加する学会・団体ならびにこれらの学会・団体の協力団体*が開催する行事等への参加。

領域Ⅲ： 本協議会に参加するいずれかの学会・団体ならびにこれらの学会・団体の協力団体の年次大会への参加

(文責：一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協議会理事 学校カウンセラー・ガイダンスカウンセラー 加勇田修士)



☆支部のキラリ！☆

「車いすの男の子、Aさん
に心打たれた瞬間」

沖縄県支部事務局次長
當眞 正太



私は、特別支援学校の教師をして19年目となります。私は、教育活動において、子どもの心に寄り添うことを大切にしてきました。子どもが、どんなことを考え、どんな気持ちになっているか、どうしてほしいと思っているのか等、私なりに思いをめぐらせながら取り組んできました。さて、これまでの教員生活の中で、障害のある子との関わりで、心打たれる瞬間はいくつもありました。その中でも、現在の私の心を支える感動を与えてくれた、車いすの男の子(以下、Aさん)のことを紹介したいと思います。

Aさんは肢体不自由児対象の特別支援学校で担任をした、小学部3年生の男の子です。Aさんは車いすで生活をしていますが、通常の小学校3年生の教科書を使って勉強のできる子でした。しかし、Aさんと対等にお話のできる子はこの学校にはいませんでした。障害の重い子たちが通う学校だったからです。当時、私はAさんの担任であり、よき相談相手でもありました。Aさんは言葉が達者でよくお話しをしてくれました。例えば、「ぼくはさびしくないよ、なぜなら教室にはグッピーちゃん(水槽の魚)がいるからね!」、「消しゴムくん、痛かったね、いっぱい削ってごめんね。」、「ぼくのお父さんはすごいんだよ、看板でも何でも作るよ!」など。私は、この子には、対等にお話のできる同年齢の友達が必要だと考えました。

その後、教育相談日に、Aさんと、Aさんのお父さんと話し合う機会を持ちました。Aさんは、たくさんの友達とお話したり、勉強したりしてみたいという気持ちを伝えてくれました。また、お父さんとしては、車いすの子が通常の小学校でやっていけるか不安はあるけれども、まずは挑戦させてみることを決断してくれました。それから、居住地校交流

を始めることになりました。居住地校交流とは、本来なら居住地にある小学校に通うはずの子どもが、離れた特別支援学校に通っている場合、定期的な交流に行けるというシステムです。Aさんは毎月1回、居住地にある小学校に私と一緒にいくことになりました。

交流先のクラスに入ったAさんは、とてもおしゃべりでした。同年齢の友達が寄ってきて、たくさん話しかけてくれました。

友達「どうして車いすにのっているの？」

Aさん「ぼくは生まれた時から歩けないんだよ」

友達「たいへんだね、車いすをこぐのつかれない？」

Aさん「ぼくは、たいへんだと思ったことは一度もないよ。だって、車いすくんはぼくのパートナーだからさ」

私は、Aさんと友達のやりとりを見ていて、涙が出そうになりました。Aさんには同年齢の話し相手が必要なこと、また、Aさんの屈託のないふるまい、朗らかさに心を打たれたのでした。

Aさんは、月に1回の居住地校交流を通して、勉強だけでなく、友達からいろいろなことを学んだようです。Aさんが、「ぼくは、友達がたくさんできてうれしかったです。そしてみんな優しくかったです。わからない算数の問題を教えてくれました。ぼくの好きなカードゲームの話もできました。先生、交流につれて行ってきてくれてありがとうございます。」と、私にお話してくれました。

Aさんを担当していた時の感動は忘れられず、現在の私を支えています。子どもの心に寄り添うこと、子どもの思いを聴くこと、教育的に実現する方法を考えることが、教師にとって、とても大切なことであることを、Aさんは教えてくれたと思います。これからも、特別支援学校の教師として、子どもの心に寄り添う関わりののできる私でありたいと思います。

最後に、この度、日本学校教育相談学会の認定資格である「学校カウンセラー」を拝受いたしました。資格取得に向けて、沖縄県支部理事の先生方から、教育相談の在り方等について、たくさんのご指導をいただきました。この場を借りて、感謝申し上げます。引き続き、本学会沖縄県支部の事務局としても、学校教育相談の普及・充実に貢献していきたいと思っております。

(担当：小川 正人)



【東京都支部】一支部活動報告

—TOKYO 2020・2021支部活動報告—

1. 活動方針

今夏、TOKYO
2020 オリンピック・パラリンピック熱戦における若いアスリートの活躍



シーンにより、多くの感動をもらいました。教職に携わる者としても更なるエネルギーを充電し、心を育てる学校教育相談に臨んでいく気持ちを新たにされている方も多いこととご拝察申し上げます。

一方、コロナ禍の先が見えず、緊急事態宣言が継続されております。

令和2年度の経緯をもとに令和3年度東京都支部総会において、本年度の総会、全3回研究会、理事幹事会等はすべて Zoom リモート環境で実施されることが承認されました。また、令和3年12月12日(日)には、南関東・新潟県ブロック合同研修会も、本年は新潟県支部が担当される予定でしたが、コロナ禍による諸事情により、急遽、東京都支部が担当することとなりました(担当支部の入れ替わりとなります。)。安全担保のため Zoom リモート形式で実施いたします。健康第一にて、是非多くの学会皆様のご参加をお待ちしております。

2. 令和3年度東京都支部総会(議事承認内容)

日時：令和3年6月13日(日)

会場：Zoom リモート開催

(1) 令和2年度事業報告

「東京都支部総会(第31回)」

- ・日時：令和2年11月22日(日)
- ・会場：新宿モノリス・カンファレンスセンター
- ・内容：(対面・Zoom 併用)

平成31年度 事業報告・決算報告・会計監査報告
令和2年度 事業計画案・予算案・役員/委員 他

(2) 東京都支部 令和2年度研究会(公開講座)

- ・日時：令和3年3月21日(日)
- ・会場：Zoom リモート完全実施(参加終了時アンケート提出により修了証を発行)
- ・講演：「学校危機における子どもへの心理的支援」
— 教師等の支援者の学びと支援 —
- ・講師：清水 勇先生(ガイダンスカウンセラー、元東京学芸大学講師)

公開講座形式で実施、会員以外の方々との交流を兼ねて参加可能とした。コロナ禍を含めて学校危機における子どもへの心理支援の在り方について多くの学びを得ることが出来た。

研修方法としても、健康第一を基本に、コロナ禍が深刻化する中であっても Zoom リモート形式採用により、例年にならぬ参加者数の増加、および多くの質問や発言が得られ、有意義な研修会であった。アンケートにおいても好評であった。アフターコロナにおける研修会形式に多くの示唆が得られた。

(3) コロナ禍に対応した活動

- ① 令和2年2月23日 コロナ禍ワーキンググループ「支部運営に関わる指針(案)」提案。
- ② 3月～4月 ワーキンググループ「支部運営成熟モデルへの位置づけ」提案。
- ③ 4月23日 ワーキンググループ「支部運営に関わる指針(案)」「活動内容進行表及び活動計画」を理事・監事に報告(郵送・e-mail併用)
- ④ 5月～6月 定例東京都支部総会を、健康第一を基本とし、コロナ禍事態推移状況により延期(延期知らせ5月1日発送)。Zoom導入に向けての移行経過処置の検討。令和2年度は対面・Zoomリモート併用形式決定。
- ⑤ 7月～9月 東京都支部理事・幹事会議開催に向け三役会(支部理事長・副理事長・事務局長等)をZoomリモート会議開催、以後毎月継続。
- ⑥ 10月25日(日) 東京都支部理事・幹事会議実施(対面・Zoomリモート併用)。

会場：新宿モノリス・カンファレンスセンター
3月の時点においてコロナ禍第3波により健康第一を基本とし、令和2年度の対面・Zoomリモート形式併用(移行期間)から、令和3年度における東京都支部活動は、完全 Zoom リモート形式で実施承認。

(4) 役員(理事幹事組織)

※〇は理事

理事長：〇山崎洋史

副理事長：〇中島敏明

事務局長：〇富澤竜

事務局：〇大平トヨ〇砥柄敬三〇犬塚喜久男、
高見寛、(ICT係：)黒崎紀子、(研究係：)
〇及川勉〇金子尚子〇清水勇

広報編集部：〇加藤秀行(部長)〇犬塚喜久男

会計部：〇星野陽子(部長)上原里子〇木村ミチ子

〇遠山和彦、(会計監査)栗原清子、白井利明



(5) 東京都支部 令和3年度活動計画

・年間研究主題「きづき・つたえ・たかめる

—コロナ禍における学校教育相談—

<第1回研究会>

・日時：令和3年10月3日(日)兼情報交換会

・会場：Zoom リモート開催

・講演：「教育臨床課題を俯瞰する～小中高を通して」

・講師：渡辺正雄先生(千葉県・千葉市スクールカウンセラー)

<第2回研究会>

(南関東・新潟県ブロック合同研修会を兼ねます。)

・日時：令和3年12月12日(日)

・会場：Zoom リモート開催

・講演：『教育相談室心理士の立場から考える緊急支援対応の取り組み』

・講師：富澤竜先生(清瀬市教育支援センター教育相談室心理士 東京都支部事務局長)

<第3回研究会>

・日時：令和4年2月13日(日)

・会場：リモート開催(Zoom)

・講演：『特別支援教室の現場から見えてきた課題と工夫』(仮)(練馬地区研修会メンバー)

・講師：岡部ゆず子先生(公立中学校特別支援教室専門員)、沼山陽子先生(公立小学校特別支援教室専門員)

コロナ禍の見通しがつかない現状を鑑みても、リモート環境下研究会・研修会は、主流のひとつとなってきております。ほとんどの教育系学会、文部科学省・厚生労働省関連の国家資格研修も本年度よりZoom リモート形式が、正式研修形式として国家認可されております。東京都支部では、ICTの活用により日頃馴染みのない方も多くいらっしゃるかと思いますし、事務局も未だ不慣れなところはありますが、より快適な研究・会議環境の実現に向けて努力してまいりますので、これからもぜひ試行錯誤のご参加でも、忌憚なきご意見をいただき向上していきたいと考えております。すでに実施したZoom リモート会議・研究会では、参加された皆様にご好評いただいております。研究会後には情報交換会を企画しております。情報収集および会員一人ひとりが日頃感じている不安や疑問を言葉(チャット等)・ブレイクアウトルームの活用などで、問題点を共有していきましょう。

どうぞ皆様、公開講座等(無料もあります)、奮ってご参加ください。(文責：支部理事長 山崎 洋史)

★第33回兵庫大会報告

令和3年(2021年)7月30日から8月1日に本学会第33回総会・研究大会を、Zoomによるオンラインで行いました。全国から225名という多数の皆様にご参加いただき、盛況裡に終えることができました。ありがとうございました。

第32回総会・研究大会を令和2年8月7日～9日に兵庫県神戸市で開催する予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大を鑑み、令和3年に延期することとなりました。令和2年3月～5月にかけて全国の学校が休校となるなど、それまでに経験したことがない未曾有の危機的状況が生まれました。ただ、当初第33回は、参加者に神戸市にお集まりいただき、対面で行う計画を立てておりました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない状況を踏まえ、第33回大会をオンラインで実施するべく計画を練り直しました。本学会において、オンラインによる全国大会は初めての取り組みになりますので、ノウハウがなく、まったく手探りの状態でした。そんな中、事例・研究発表18件、自主シンポジウム4件の申込みがあり、オンラインでもやれるという実感が湧きました。

かつて阪神淡路大震災、東日本大震災という甚大な被害をもたらした災害の時、多くの力が結集して絆をつなぎ、困難を乗り越えようとしてきました。災害のあり方は違うものの、今回も同様のことがいえると思います。このような時期だからこそ、子どもに関わる者が豊かな感受性を持ち、子どもが抱えるさまざまな課題に気づき、子どもに関わる者同士がつながり、子どもたちを支援していく必要があります。そこで、第33回のテーマは第32回を引き継いで「気づき つながり 支えあう教育相談 ～さまざまな課題を乗り越え、多様な個性が輝くために～」といたしました。

課題を乗り越え、多様な個性が輝くということを念頭に、一般社団法人LGBT政策情報センター代表理事の尾辻かな子先生に「LGBTをめぐる教育課題」をテーマに記念講演をしていただきました。LGBTの理解と性的マイノリティの子どもたちへの支援のあり方を学ばせていただきました。

第33回大会はZoomによるオンライン実施ということで、実行委員がZoomの操作に習熟することから始めなければなりません。Zoomによる実行委員会は勿論、万全の操作に向け

て情報交換を密にしました。また、事前に発表者と実行委員の担当者が、Zoomによる打ち合わせを行ったりして大会当日の発表が円滑に進むように配慮しました。

機器および操作に不具合があってはならないと考え、神戸野田高等学校を大会本部としてお借りしました。神戸野田高等学校にはハイスペックなパソコンを12台用意していただき、操作環境も最善を尽くしていただきました。実行委員は全員大会本部に集まり、Zoomによる運営を実行しました。専門的な知識を持った方に3名入っていただき、不測の事態にも備えました。大会が大過なく終了できたのも、神戸野田高等学校のご協力があったと感謝しております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

今回はオンラインということで、参加された皆様のWi-Fiの環境等、こちらではどうすることもできない課題もありました。しかし、無事に終了した今、本学会でもオンラインによる全国大会が可能であるということを示せたのではないかと思います。あらためまして皆様のご支援とご協力に感謝申し上げます。

今回の成果や反省を栃木県支部に引き継ぎ、栃木県支部主管の第34回総会・研究大会が更なる発展を遂げることを祈念しつつ、報告とお礼とさせていただきます。ありがとうございました。

(文責：兵庫大会実行委員長(兵庫県支部理事長)
向江 幸洋)

★災害被災者支援委員会報告

今回は、リモートで行われた第33回総会・研究大会(兵庫大会)の3日目に本委員会として実践事例発表「東日本を中心とした災害支援活動の振り返り及び支援プログラムの提案」を行いましたので、報告いたします。

本学会員の多くが教員であることを活かして、被災地の子どもたちが平常な学校生活を取り戻し、健やかに成長することや、被災地の学校・園および転出した子どもたちを受け入れた学校を支援していくことを目的として、現地を訪問し、主に教員を対象とした校内研修による支援を行ってきました。

今大会では、その研修で行ってきたプログラム(研修3回を1セット)の内容の紹介及び実施後の先生たちのアンケート結果を紹介しました。

発表後の協議では、開発的教育相談として位置付

けられることや先生たちが笑顔で参加していたこと、また、一般的な数値では表れない子どもたちの安定した状況などが見られたなどのご意見もいただき、支援委員として大いに励まされました。

今回はリモートによる発表ではありましたが、多くの皆様に参加していただきありがとうございました。今後、HPや学会誌などに「実践報告」として掲載・投稿していくことを、先日の支援委員会で話し合いましたので、掲載の暁には、ご覧ください。

(文責：災害被災者支援委員長 砥柄 敬三)

★会長コーナー

栗原前会長よりバトンを引き継ぎました。立命館大学大学院教職研究科に所属しています。どうぞよろしくお願いいたします。新型コロナ感染が、学校、子どもたちにまで広がりを見せるなかで2学期が始まりました。皆様の職場や生活はいかがでしょう。

この間の気になる大人や子どもたちの状況については、次の点を挙げることができます。①日本赤十字社が指摘するように、コロナ感染拡大に伴い、「感染・不安・差別」という3つの問題が人間関係、コミュニケーションを寸断している。②中学校から高校にかけて、特に女子生徒の自死が増えている。③小学校の高学年から中学校、高校にかけて、自傷行為が増加傾向にある。④小学校、中学校での不登校が増加傾向にある。⑤虐待、DV環境にある子どもの困難な状況が、より顕在化している。⑥マスク生活で相手の表情もわかりにくいなか、SNSも含めてトラブル事象やいじめ自体も増加傾向にある。

その一方で、コロナ感染への不安から登校できない子どももいたが、教室にカメラを設置してハイブリッドで授業を行い参加することができた。他の子どもからも「ずい」といった声はなかったという報告もあります。

文部科学省(2005)も不登校の児童生徒が自宅でICTを使って学習した場合、出席扱いとし、成果を評価に反映できるという通知を早くから出しています。

このような可能性の広がりや具体化も含めて、子どもたちの様々なSOSを受けとめ、発達、成長につなげていけるような包括的な指導、支援、ケアの在り方が求められています。そのための実践、研究、

研修を推進していくことが、学会として重要であると考えています。

(文責：会長 春日井 敏之)

★事務局より

この度、新しく事務局長になりました木村(岐阜県支部)です。慣れないことが多いですが、よろしく願いいたします。

- 公益社団法人に関しては、現在も内閣府公益認定等委員会に申請中です。昨年来審査が遅れ、許可待ちの状態が続いています。
- 学会新役員が、夏の総会で承認されました。総会資料は、学会HPに掲載中です。
- なお、総会で提案した令和3年度の予算案に記載ミスがあり、お詫びいたします。繰越金が110円多く記載されていました。訂正版は、各支部理事長に送付いたしました。

(文責：事務局長 木村 正男)



★編集後記

本年7月31日にWebで開催されました2021年度総会で新役員が承認されました。今後2年間、本学会のお世話をさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。また、本会報は年3回発行されますが、できる限り会員の皆様の声を反映したいと考えています。忌憚のないご意見を心よりお待ちしております。

(文責：広報委員長 山本 健治)

一般社団法人日本学校教育相談学会 会報
第66号

令和3年10月20日発行

発行 一般社団法人 日本学校教育相談学会
会長 春日井 敏之

編集 一般社団法人 日本学校教育相談学会
広報委員会 委員長 山本 健治

事務局 〒179-0073

東京都練馬区田柄3-11-28

一般社団法人 日本学校教育相談学会事務局

電話/FAX 03-3926-7386

HP <http://www.jascg.info/>